

山桜の里 戸赤



集会所と学校周辺の草刈り



避難訓練

一年に二回実施しなければならない山桜学校の避難誘導訓練が六月十二日行われました。集会所掃除に集まった地元の住民十四人参加しました。厨房からの出火を想定し通報・避難・誘導訓練の後、広域消防署から借りた水消火器で初期消火訓練を行いました。

水消火器で初期消火訓練



一枚貼り用の障子紙でないと合わない大きさの建具



カメムシがいつぱいの蛍光灯

六月十二日ほぼ全世帯が出席し、草刈り、草むしり、流し・トイレ掃除、障子貼りなど集会所掃除が実施されました。

集会所の掃除

気心知れている村の旅行はまた格別 6/9



なごみの村旅行

戸石集落恒例行事

みんなの家で田植えが終わるのを待って行われている戸石集落の親睦旅行。古峯神社への無火災祈願をメインに今年は日光華厳の滝のしぶきを浴びてきました。参加は一戸で複数人も歓迎される。貸し切りバスの車中は家族旅行のような和やかさ。

【木地の学習No.68】角キアゲは茶櫃や茶盆の底、お膳などの平らな部分を仕上げ、カドマルは胴と底の接点を仕上げる時に用いることが多い。丸キアゲはツボ、基石入れなどの中を仕上げる時に用いる。バイトも大体同じ使い方をするが、バイトの方が刃の巾が狭いため、細かな部分の仕上げに都合がいい。また大きな杯、鉢などゆるやかな曲線をもつ製品の仕上げに適している。バイトにも角、丸、カドマル(半丸)とがある。このほかにイチヨウガタという刃物があり、これは前述したミソキリと同じ使い方をするが、イチヨウガタの場合は刃物の方をロクロに取り付け、製品を手に持ち押し付けて穴をあけていく。ミソキリより古い刃物であるが、能率があまり上がらないため、次第にミソキリにとって代わっていった。塔資料館には、このような刃物が300点あまり収蔵されているが、これは種類が多いのではなく、多種多様な製品を挽くために、それぞれの刃物を工夫して作ったためで、同じ種類の刃物でも一つ一つ目的に応じた使い方をしたのである。これが、長く椀木地を作ってきた木地屋の刃物との大きな違いである。東北地方へ展開した木地師 東北地方の木地小屋 日本最古の轆轤挽きによる木製品は、奈良県唐古鍵遺跡出土の高杯であり、弥生時代のものである。…東北地方にも奈良時代ごろから木地師の存在が確認でき、平安時代になると出土品も増加してくる。各市町村の遺跡報告書から拾い上げてものであるが、報告書によっては、椀とか皿、漆器の記述しかないものもあり、轆轤挽きとは断定できかねるので、ここでは「挽き物」と記載されているもののみを取り上げた。従ってもっと綿密に報告書を検討すれば、古代から中世にかけての挽き物出土がさらに増加するだろう。

(会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より) (続く)



株間1mでのびのび栽培

花豆

栽培

雨の少ない期間が続
きやきもきしたが、
肥しも効きはじめが
がなってきた。これか
ら楽しみ。(談)



第13回 戸赤やまざくらまつり



廃校利用で研修

3/27 湊地区10人来所

廃校の利用を

これから考える会津若松市湊町原地区の関係者が戸赤の事例を学びたいと視察に訪れました。(株)グリーンファームという組織がありそこで運営するというので、宿泊なしの体験型を想定しているということでした。



現在の井戸沢橋からの眺め

川が変わって道路が良くなる



硬い岩盤の床掘が終わ
り、これから構造物が
現れようとしている。



小椋利幸さん

(ストーリー性のある村づくりのために[No.36])平成五年以降も黒曜石のサンプルの収集は続いている。西会津町上小島遺跡採集の資料は、いまだ産地同定を経てはいないが、肉眼の観察では長野県や栃木県のものとは相違するようである。後期・晩期の伊南堂平遺跡や上八田遺跡の黒曜石も、この分析で栃木県高原山から運ばれたものと考えられている。只見窪田遺跡の第二次調査で、古式弥生の時代に営まれたと思われる7号居住跡は小型の鉢に黒曜石のフレイク、オパールを納入した土器が検出されている。黒曜石の産地同定は経ていないが、遺跡近辺では産出しない黒曜石は弥生時代においても貴重品だったものと思われる。…弥生時代 弥生時代のはじまり 下郷町の弥生時代については五百地遺跡を除けば、まとまった資料が少ないため。全体を見通すことができない状況にある。ここでは周辺の関係遺跡からの資料も交えて南会津地方の弥生時代について記してみたい。

(「下郷町史—第7巻通史編(発行・下郷町)」より出典(続く))